

リスクという単語に初めて出会ったのは30年前でした。その単語の日本語訳という難問はいつしか私の脳裏の中で沈んでいきました。歳月が流れ、10数年ほどの前に米国の某大学の医学図書館において調べものをしている中で、「Risk」という分厚い古書に出会った時、私の脳裏に潜んでいた古ぼけた記憶が突然に飛び出しました。

その後10年ほど前に、日本に待望の疫学会が設立された時、これからの予防医学は学問としてどのような方向性に進むべきであろうかを1人考える余裕ができました。そこで、「リスク」という単語と医学の関係を考え直してみました。すると、あたかも対立的な医療のように捉えられがちな「診断と治療を主務とする臨床医学」と「早期発見と対策を主務とする社会予防医学」をリスクアセスメントとリスクマネジメントという用語で学問的に統一できる。そして、その原理と方法を探ることにより、医学の内部に広く滞積しているさまざまなバリアーと難問が解決できるのではないかと、との強い衝撃がわいてきました。時はまさにリスクアセスメント学のまっただ中であつたことから、わたしはリスクマネジメント学を世界各国に個人的に探し求めました。その結果、本会の趣旨で述べましたとおり、医学におけるリスクマネジメント学が膨大な底辺を有する霊峰であることを理解しました。

さて、予防医学リスクマネジメント学会が日本と世界の同胞の膨大な尽力によりによって設立された2年目の昨年、私は本誌のタイトルを考える機会をいただき、「安全医学」を迷わず選ばせていただきました。その後、このタイトルには日々寂しさがわいてきました。そして、この寂しさの因が予防医学リスクマネジメントは安全だけを最終目標にしていなかったためではないかと思ひ当たるに至りました。もし医療の最終目標が人の心の安寧の問題であるとする、リスクマネジメントはこの心の世界を解決できなければ、それは単なる道具や技術に過ぎず、医学の中での相対的な価値が低い。こう考えて、私は「安心」という新たな世界に達しました。

さて、「安心」とは何でしょうか。「この道を選んで安心できる。」この言葉は、医療従事者と患者さんの双方に共通する思いの1つです。つまり、人は将来ある事を選択するときに、選択した安全な方針に対して疑いなき信頼を寄せられれば、「安心」の境地に到達します。ここから、リスクマネジメントには以下のような必要条件が見出されます。

1. リスクマネジメントは、将来における方針を選択する行動である。
つまり、「望ましくないことが起きる確率」というリスクの今日的な定義は、選択した方針がもたらす危険性を含んでいる。
2. 候補として提示される将来への方針にはその時の科学ではまだ解明がつかない不確実性を伴うので、方針選択という意思決定には心から納得のいく信頼性を立証・提示することが不可欠である。つまり、意思決定における信頼性の科学の発展が必要である。

リスク学は第2次世界大戦の前のドイツにて、リサイクルを含む膨大な研究がなされており、それらは戦後米国に移管され、開花しました。しかし、方針なり対策には経済性、受容性、迅速性、透明性など様々な質的指標がみとめられ、どのような次元が存在するかを医学的に丹念に検証する事も今日なお必要です。

学会の設立後の2年間に、リスクマネジメントの原理と方法について教えてほしいという会員の沢山の熱望がとどきました。学会の活動はそのタイトルにあるよう

に、医療の方針についてリスク学を基礎に考えるものです。しかし、上述した例のように、リスクマネジメント学は解決すべき無数の学問的な問題を抱えています。そのために、学問発展の現段階で、ある特定の人物がこうであると回答することは学問の将来の発展にとって好ましいでしょうか？学問の常として百家争鳴が必要であるとの考えによれば、本誌を含めて学会が抱える複数の機関誌と学術集会を通じて会員がリスクマネジメント学がどうあるべきかを真剣に議論していただくことが王道であるような気がします。そして、この願いは、この創刊号に掲載された日本を代表する各分野の専門家のご原稿を以て納得いただけると確信するに至りました。

このようにリスクマネジメント学は大変な難問をたくさん抱えており、対象によってことなることが多いものです。学会は当初電子ジャーナルを考えてきましたが、医療の現場ではネットユーザーが必ずしも多くなく、電子ジャーナルだけでは医学の問題解決を期待できないという厳しい現実も突きつけられました。これらから、本誌の印刷・出版という困難な共同作業を経て、日本の将来を担う会員によって次第に難問が解決できれば、また互いの経験を交換する場としても本誌が機能できれば、という強い要望から本誌の印刷がはじまりました。印刷物の形態により、会員の著作が全国および世界の医学図書館に貯蔵され、より広い社会との間での交流がオフラインで促進されます。

以上ですので、会員の論文投稿をよろしくお願い申し上げます。